

## 報告 2002 多くの犠牲者を出した 120 年前の安達太良山の噴火を次世代へ伝える

佐藤 公（磐梯山噴火記念館）

噴火から 120 年という節目の年に、安達太良山のシンポジウムと企画展を開催し、福島県民に対してこの火山の恐ろしさとすばらしさを伝える活動を実施した。

企画展 「噴火 120 年から考える 安達太良火山」

期間：2020 年 7 月 18 日 ～ 11 月 30 日 136 日

（当初 11 月 8 日までの予定であったが好評のため、月末まで延長する）

企画展見学者数：12,500 人（例年の企画展と比べ、安達太良山周辺の見学者が多かった）

安達太良山麓の二本松市や猪苗代町で、この展示をしてほしいという声が聞かれた



福島民友新聞社（2020 年 7 月 16 日）



朝日新聞福島版（2020 年 7 月 17 日）



福島民報社（2020 年 7 月 16 日）



毎日新聞福島版(2020 年 7 月 17 日)

## イベント

### 「第1弾 シンポジウム 安達太良噴火 120年」

講演者：藤縄明彦茨城大名誉教授・伊藤順一氏と篠原宏志氏(産業技術総合研究所)

開催日時：2020年9月12日 14:00 ～ 16:00

開催場所：福島県立図書館 講堂 (福島市)

参加者：65人



### 「第2弾 子供向け講座 安達太良山は生きている」

担当者：佐藤公磐梯山噴火記念館館長・小林沙織福島県立図書館司書

開催日時：2020年9月13日 14:00 ～ 16:00

開催場所：福島県立図書館 研修室 (福島市)

参加者：小学生 15人



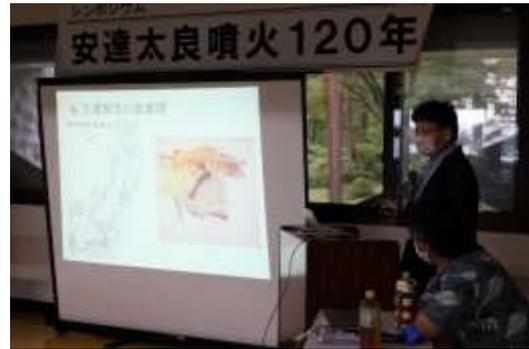
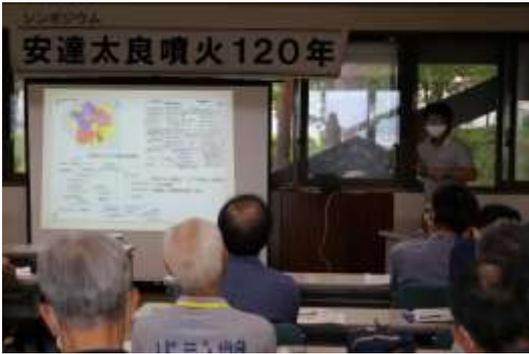
### 「第3弾 ミニシンポジウム 安達太良噴火 120年」

講演者：藤縄明彦茨城大名誉教授・佐藤公磐梯山噴火記念館館長

開催日時：2020年9月28日 14:00 ～ 16:00

開催場所：磐梯青少年交流の家 (猪苗代町)

参加者：20人



「第4弾 安達太良火山 観察会」

案内者：藤縄明彦茨城大名誉教授

開催日時：2020年9月29日 9:00 ～ 12:00

開催場所：安達太良山の西側

参加者： 15人



当初はこの4つのイベントだけの開催予定であったが、以下の3つのイベントを開催した。

1. 二本松市立安達太良小学校の出前授業 「安達太良山は生きている」

出前担当者：佐藤公磐梯山噴火記念館館長

開催日時：2020年12月16日 13:30 ～ 15:00

開催場所：安達太良小学校

参加者： 10人（5・6年生）



2. 二本松市 安達公民館 生涯学習 「安達太良山噴火 120 年から学ぶ」

講演者：佐藤公磐梯山噴火記念館館長

開催日時：2021 年 2 月 19 日 10:00 ～ 12:00

開催場所：安達公民館

参加者： 70 人



3. 郡山市 水と緑の案内人の会 「福島県の火山と火山防災 安達太良山を中心に」

講演者：佐藤公磐梯山噴火記念館館長

開催日時：2021 年 3 月 20 日 10:00 ～ 12:00

開催場所：郡山市中央公民館

参加者： 20 人



2021 年度も二本松市の別の公民館で 2 回、安達太良山についての講演会を開催することが決定している。担当は佐藤公。2022 年度に、安達太良小学校の出前授業も予定している。

## アンケート結果

### a. 福島市で開催した9月12日のシンポジウム（回答者：48人）

男性：84% 女性：16% 30歳代以下:6% 40歳代～50歳代:40% 60歳代以上:54%

一般：73% 防災関係者：27% 福島市：60% 福島市以外：40%

120年前の安達太良山の噴火を知っていた：71%

23年前の安達太良山の火山ガス事故を知っていた：82%

196年前の岳山崩れという土砂災害を知っていた：39%

#### [感想]

- ・噴火120年を記念してこのようなシンポが開催されたことが意義深い
- ・実際の火山災害の歴史を知れて参考になった
- ・語り継ぐことの大切さを再認識しました
- ・今までは地震や津波にしか興味がなかったが、火山災害も学びたいと感じた

### b. 二本松市で2月19日に開催した講演会（回答者：62人）

男性：12% 女性：88% 60歳代：15% 70歳代以上：85% 全員が二本松市民

121年前の安達太良山の噴火を知っていた：62%

24年前の安達太良山の火山ガス事故を知っていた：88%

197年前の岳山崩れという土砂災害を知っていた：15%

#### [感想]

- ・安達太良山の噴火や岳山崩れについて、少しずつ地域で伝えていかなければと思った
- ・地元の火山について詳しく聞き、防災の大切さを知りました
- ・沼の平の火山ガス事故では、埼玉の知り合いが亡くなったので、気になります

### c. 郡山市で3月20日に開催した講演会(回答者：24人)

男性：54% 女性：46% 40歳代～50歳代:21% 60歳代以上:79% 郡山市内が多数

121年前の安達太良山の噴火を知っていた：71%

24年前の安達太良山の火山ガス事故を知っていた：83%

197年前の岳山崩れという土砂災害を知っていた：42%

#### [感想]

- ・防災教育は福島にとって欠かせないものだと思う
- ・実験がよくて火山の仕組みを理解できた
- ・とても火山に興味をわきました。これからも意識的に学んでいきたいと思えます

## 企画展とシンポジウムなどのイベントを開催しての考察

当初、予想していたことだが、1900年の安達太良噴火について、福島県内ではあまり知られていないことが明らかとなった。シンポジウムや講演会に参加するような人々は、もともと噴火を知った上での参加が多いと思われる。そこから考えると、1900年の噴火について知っていた人は半分にも満たないのであろう。

磐梯山の噴火は多くの福島県民が知っている。それは、地元の人々が多数犠牲になった災害であり、地元では毎年慰霊祭が開かれ、噴火百年の時には、地元3町村(猪苗代町・磐梯町・北塩原村)では「百周年記念誌」も発行され、当磐梯山噴火記念館も開館し、シンポジウムなども多数開催された。また、噴火により五色沼などの美しい湖沼群が作られ、1950年には国立公園となり、2011年には日本ジオパークの認定も受けている。

安達太良山の噴火の犠牲者は、火口の近くにあった硫黄の精錬所の従業員であった。彼らの多くは、地元の猪苗代町以外の人々が大部分を占め、地元の猪苗代町では災害を語り継ぐという機運は生まれず、噴火100年の際に、慰霊祭を実施しただけで終わっている。そのために、多くの県民が安達太良山の噴火を知らないのである。

なお、2020年12月25日にオンラインで開催された東北地域災害科学研究集会において、佐藤公は「磐梯山と安達太良山 なぜ災害の継承が異なったのか」というテーマで講演を行った。

1824年の岳山崩れは、当時の岳温泉に大雨による斜面崩壊の土砂が流れ込み、多くの犠牲者を出している。こちらは地元の人々が多数犠牲になっているのだが、過去の災害を語り継がれてこなかったことと200年近くも経過することで、ほとんど忘れ去られてしまったのであろう。

今回の企画展やシンポジウムに参加した岳温泉関係者からは2024年が岳山崩れから200年になるので、盛大に慰霊祭を開催し、シンポジウムなども行いたいという声が聞かれた。

当館のような火山の博物館が、福島県内で過去に発生した甚大な火山災害を伝えることはとても重要であると、改めて再認識するに至った。今回、全国科学博物館振興財団からの助成があり、この企画を開催できたことに感謝したい。